

図 3-3 サモア独立国タファイガタ処分場(JICA事業)

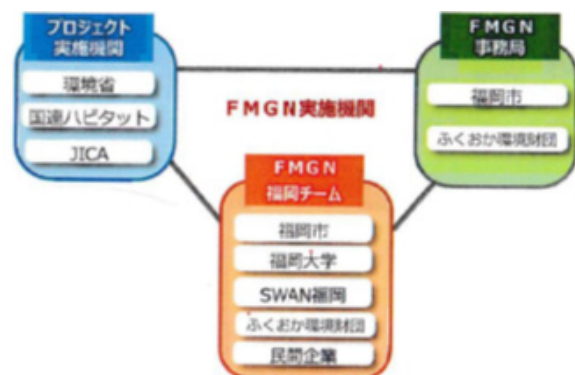


図 3-4 ケニア国カンゴキ処分場(国連ハビタット事業)



このように、様々な機関と一緒に福岡方式を現実化してきました。

現在は世界で 21 か所、福岡方式の適応事例があります。



それで、今回、左記のようなFMGNの設立に至りました。持続可能な廃棄物埋立技術を適正化して、世界中に広めて、持続可能な都市形成に貢献していくための国際的な推進組織の設立です。

Prof. S. Miura's Commentary :

学校法人福岡大学の外部評価委員会からも、地域連携に関して、かなり高い評価が得られています。

例えば、

- 1) 高等教育と地域社会の活性化を図る「福岡未来創造プラットフォーム」創設に係る中心的役割を担当している、
- 2) 社会連携・社会貢献活動を通じて UNIVAS AWARDS における最優秀賞の受賞や、河川清掃活動の環境保全功労者としての知事表彰を受ける等々があります。

地方の拠点大学である福岡大学です。私たちは、アジアの玄関口である福岡の地の利をふんだんに活かした将来構想の中にいます。福岡大学カーボンニュートラル推進拠点設置が九州を活性化し、さらにグローバルに飛躍することを期待しています。

Vascular Street Journal

「福岡大学の社会連携・地域連携活動」その1

福岡大学 学長 朔 啓二郎

はじめに

福岡大学には、「福岡大学地域連携ポリシー」が、平成 30 年 4 月に制定されています。これは、福岡大学は、地域との絆を大切に、時代や社会の要請に応じた教育・研究・医療の拠点として社会の発展に寄与することを目標にしています。本学は地域連携を重要な柱として位置づけ、地域の多様な主体（行政、企業、NPO、教育機関、医療機関、地域住民等）と連携した教育・研究・医療を全学的に推進することで地域社会の活性化と発展に貢献するとともに、地域から知識や人材、機会等を積極的に取り入れることで、さらなる教育力の向上、研究の高度化、あたたかい医療の推進を図ります。地域連携ポリシーとして、

- 1) 地域の活性化と発展を牽引する拠点大学
- 2) 地域の未来を担う人材の育成
- 3) 地域とのつながりを重視した研究の推進
- 4) 地域への教育機会の積極的な提供
- 5) 地域活動を支える環境の充実、があります。

2022年6月3日、記者発表 於、中央図書館多目的ホール



※プレスリリースは福岡大学公式ホームページ「マスコミ関係の皆さま」でも配信しています
送付枚数3枚（本書含む）

報道関係者 各位

記者発表のご案内

福岡大学カーボンニュートラル推進拠点を設置
～ 2050 年までの脱炭素キャンパス実現を目指して ～



社会連携センターでは、「福岡大学地域連携ポリシー」に基づき、時代や社会の要請に応じた教育・研究・医療の拠点として、社会の発展に寄与することを目標に地域との絆を大切に活動を進めています。新聞・テレビ等の報道で多くの皆様がご存じのように、新型コロナウイルス感染症対策・対応においても、福岡大学は先駆的な取り組みをしてきました。今回は、最初に、今年 6 月 3 日に記者発表した、「福岡大学カーボンニュートラル推進拠点設置」のお話をして、その一つとしての福岡方式の廃棄物埋立技術（ごみ処理方法）をご紹介します。これらは、地域の環境問題、つまり、脱炭素社会の「さきがけ」となった福岡大学の取り組みと言っても過言ではありません。

Special eatur

